

第41回「環境賞」に6件

時代のニーズにマッチ

アジア地域に適したコミュニティ排水処理システムの開発と普及



立体格子状接触体回転円板を設置
する。主たる汚濁負荷となり
て経済発展と都市化が著しいが、適正なインフラ整備が伴わないため、深刻な水質汚濁や衛生環境悪化の問題が生じている。主たる汚濁負荷となり、近年インンドネシアでは、コムニティーレベルで

近年、アジア地域において経済発展と都市化が不可欠だが、大規模な投資が必要である。現実的な対策として、現地のディアン・デサ財団と協力して、特定非営利活動法人APEXは、インドネシア現地のアジア地域に適した排水処理技術の開発と普及に取り組んできた。

【優秀賞】

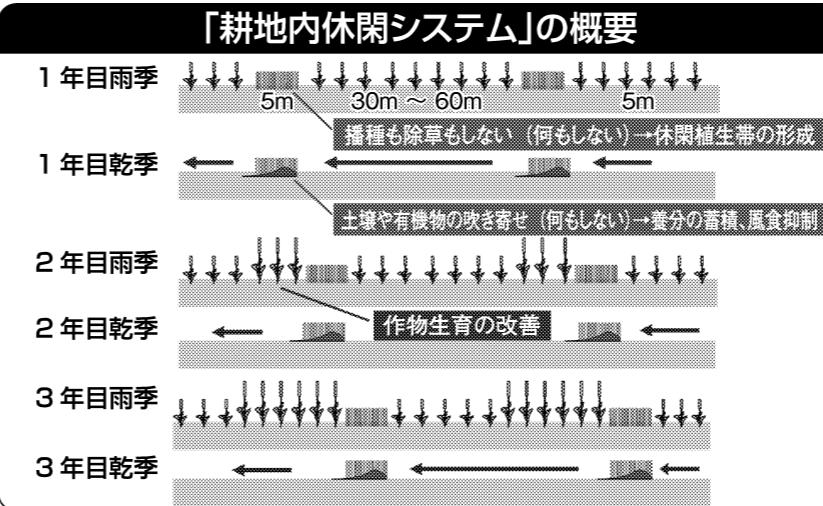
APEX・田中直氏

ついている生活排水の処理の衛生改善策が注目されている。ところが、その中型の下水道は大多な投資が必要である。現地での実証試験では、1年の雨期に農耕地の内休閑システムで、耕作地を設けて、この休閑植生帯を設ける。この休閑植生帯は、種まきや除草をしないことで自然に雑草が繁茂することにより作物が枯死する。乾期には、この休閑植生帯が東から吹く季節風を防ぐ。この休閑植生帯を設けることにより作物の収量を徐々に向上させることができる。

第41回「環境賞」審査委員(敬称略、順不同)

【委員長】
合志 陽一 国際環境研究協会会長、東京大学名誉教授
【委員】
大井 玄 東京大学名誉教授
大井 柳太郎 自然環境研究センター理事長、東京大学名誉教授
清水 康弘 環境省総合環境政策局長
住 明正 国立環境研究所理事長
松野 建一 日本工業大学教授・工業技術博物館長
丸山 瑛一 理化学研究所名誉研究員、元日立製作所理事
本川 達雄 東京工業大学名誉教授
安河内 朗 九州大学大学院芸術工学研究院教授
根本 英幸 日刊工業新聞社日刊工業産業研究所長

風による土壌侵食の抑制と収量向上を両立させる砂漠化対処技術



砂漠化問題は地球規模の関心事であり、日本を含む「国連砂漠化対処条約」の批准国には問題解決のため実効的な貢献が求められている。砂漠化が求められるためには、資源・経費や資機材・時間・労力をかけずに日常の生業活動の範囲内で容易に実践できる技術や取り組みなどが求められる。また、生態環境の劣化の予防や修復だけではなく、人々の暮らしを支える農耕や牧畜、薪炭採集など日常生活活動が原因となっている点にある。

総合地球環境学研究所・田中樹氏、首都大学東京・伊ヶ崎健大氏、京都大学大学院地球環境学堂・真常仁志氏、国際農林水産業研究センター・飛田哲氏

環境大臣賞・優秀賞

審査委員長 合志 陽一

審査概評

ツールとして高い有効性が期待される労作です。

英虞湾の沿岸遊休地

ト」は利用されていない干拓地に海水を導入し干拓地を再生し、海の環境を改善させる試みであります。

行政、住民、観光業者、漁業者、研究者の一

体活動として干拓再生に取り組んでいます。

「大都市における人工

地盤上の大規模緑地創

造」によって、これまでの自然環境が増えてきたこと

が特徴です。

途上国の経済的発展に伴い、環境汚染は世界的大問題につながりました。

環境賞は1974年

の創設以来、第41回を迎

えます。近年の授賞対象はわが国ばかりでなく世界の汚染につながります。環境賞は1974年

の創設以来、第41回を迎